

令和4年9月6日

令和4年度第1回大河原地域普及活動検討会

令和元年東日本台風被災農地の 復興に向けた担い手確保

計画期間：令和3年度～令和4年度

対象者：竹谷地区基盤整備推進委員会 20人

大河原農業改良普及センター

◎近藤誠，内海章，伊藤あゆ美，伊藤修，庄子正秀

組織の概要

1. 丸森中央集団転作組合（竹谷地区基盤整備推進委員会）について

営農地区：竹谷地区・五福谷地区・中通地区 等

設立年月日：令和2年4月28日

組合員数：123名（設立当時）

組合の目的：台風の甚大な被害からの営農再開体制の構築と持続可能な農業を維持し，次世代に優良な農地を継承する

2. 被害の概要等

被災した農地面積：約66ha

- 経過
- 令和2年：台風被害で営農不能
 - 令和3年3月：一部復旧工事完了
 - 令和3年5月：2年ぶり営農再開
 - 令和4年3月：復旧工事完了

普及センター
営農再開に向けた
支援を実施

被害の影響

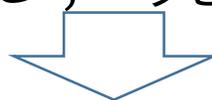
農地



農業機械



甚大な被害を及ぼし，先行きが見通せない



営農意欲 の低下

離農者増加の危機

復旧に向けた支援体制（R元年～）

農地の復旧

農業機械の整備

営農再開に向けて

農村振興課
農村整備課

みやぎ米推進課

農業振興課

農業農村整備部

農業振興部

普及センター

丸森町等と連携し，農業の復旧・復興の道筋を検討し，被災農家へ提案

R4～
○農園研
○ヤンマー
アグリジ
ヤパン
株式会社

営農意欲の維持・営農継続

R2復旧に向けた事業の活用

ハード

農地

災害復旧事業
(復旧工事)

農業機械

強い農業・担い
手づくり総合支
援事業 (被災農
業者支援型)

ソフト

支援施策

産地交付金
「地力増進作
物作付」

事業の活用による復旧

営農意欲 の維持

営農の継続

R2復旧・復興への取り組み

ハード

農地

災害復旧事業
(復旧工事)

土壌診断

農業機械

強い農業・担い
手づくり総合支
援事業(被災農
業者支援型)

経営支援

ソフト

支援施策

産地交付金
「地力増進作
物作付」

栽培支援

事業の活用と普及活動による復旧・復興の実現

営農意欲 の維持・向上

営農の継続・発展

R2被災農地保全活動

地力増進作物の作付けによる営農再開に向けた準備を開始



【地力増進作物の展示ほ設置】



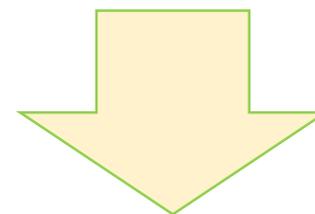
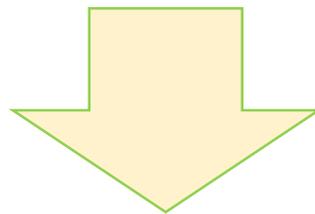
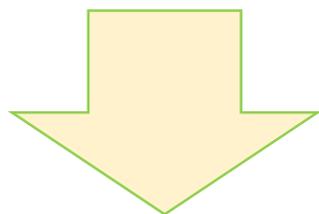
【地力増進作物のヘアリーベッチ】

R3営農再開の支援

復旧初年目の
水稲作付不安

用水が確保で
きないほ場の
作付品目

担い手の明確化



1. 復旧水田
の
水稲安定栽培

2. 用水確保でき
ないほ場における
作物の栽培支援

3. 担い手確
保
支援

R3取組内容と活動の成果

1. 復旧水田の水稲安定栽培

- 復旧工事後の水田の土壌理化学性の分析に基づいた栽培支援
- 地下茎雑草対策支援

2. 用水確保できないほ場における作物の栽培支

- 援 ○土壌理化学性の分析やドローンを活用した排水性調査に基づいた作付圃場の選定支援
- 農地の条件に合わせた作付品目の選定支援
- 転作作物（そば、ブロッコリー等）の栽培技術支援

3. 担い手確保支援

- 生産者リーダー等との交流からの人材の掘り起し
- 将来ビジョン作成支援

R3活動成果

【共同作業体制の構築】

【営農意欲の維持・向上】



【園芸栽培への転換誘導】

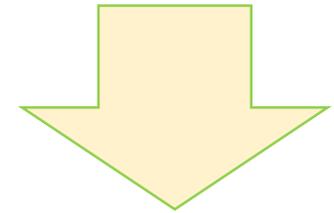
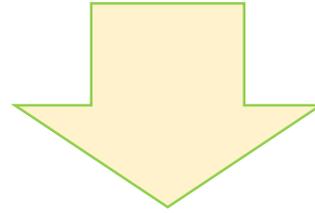
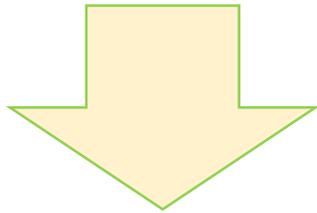


R4課題と取組

復旧2年目の
水稲作付不安

園芸取組面積
の拡大

担い手の明確化



1. 復旧水田での
水稲安定栽培支援

2. 復旧水田での
園芸品目安定栽培
支援

3. 担い手確
保
支援

R4成果指標と活動指標

指 標	目 標																	
成果指標	【定性的目標】																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の復旧状況に合わせた営農が再開されることで、農業者が前向きに農業に取り組めるようになる。 ・ 地域の担い手候補が明確化される。 																	
	【定量的数値目標】																	
	<table> <tr> <td>担い手人材の確保</td> <td>R2</td> <td>→</td> <td>R3</td> <td>→</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>(目標)</td> <td>1人</td> <td></td> <td>2人</td> <td></td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>1人</td> <td></td> <td>1人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	担い手人材の確保	R2	→	R3	→	R4	(目標)	1人		2人		3人	(実績)	1人		1人	
担い手人材の確保	R2	→	R3	→	R4													
(目標)	1人		2人		3人													
(実績)	1人		1人															
活動指標	【定量的数値目標】																	
	合計総現地活動日数 75日 / 48日																	
	復旧農地の安定栽培技術支援 56日 / 34日																	
	担い手の確保支援 19日 / 12日																	

R4取組内容と活動内容

1. 復旧水田での水稲安定栽培支

援

- 復旧2年目水田での肥培管理や病虫害防除指導
- 地下茎雑草等の雑草対策支援

2. 復旧水田での園芸品目安定栽培支援

- 農地に合わせた品目の選定の支援，栽培技術指導
- ヤンマーアグリジャパン株式会社及び農業・園芸総合研究所と連携した支援（ブロッコリーの機械化一貫体系等）

3. 担い手確保支援

- 品目担当者への積極的指導による担い手候補育成と意識醸成

1. 復旧水田での水稲安定栽培支援

7月13日 現地検討会

現地ほ場を確認し，葉色などから肥培管理
についてアドバイス

ほ場によって葉色が異なる
(土砂流入の影響も)



2.復旧水田での園芸品目安定栽培支援



湿田で栽培
可能な品目は？

土壌分析結果
からどのほ場
を選択する？

将来に向けて
ブロッコリーの
機械化一貫体系
の実証に取組
んでみては？

品目の提案しながら，組合の意向
を尊重しながら，品目選定を支援

R4作付マップ

飼料用米
(7ha)

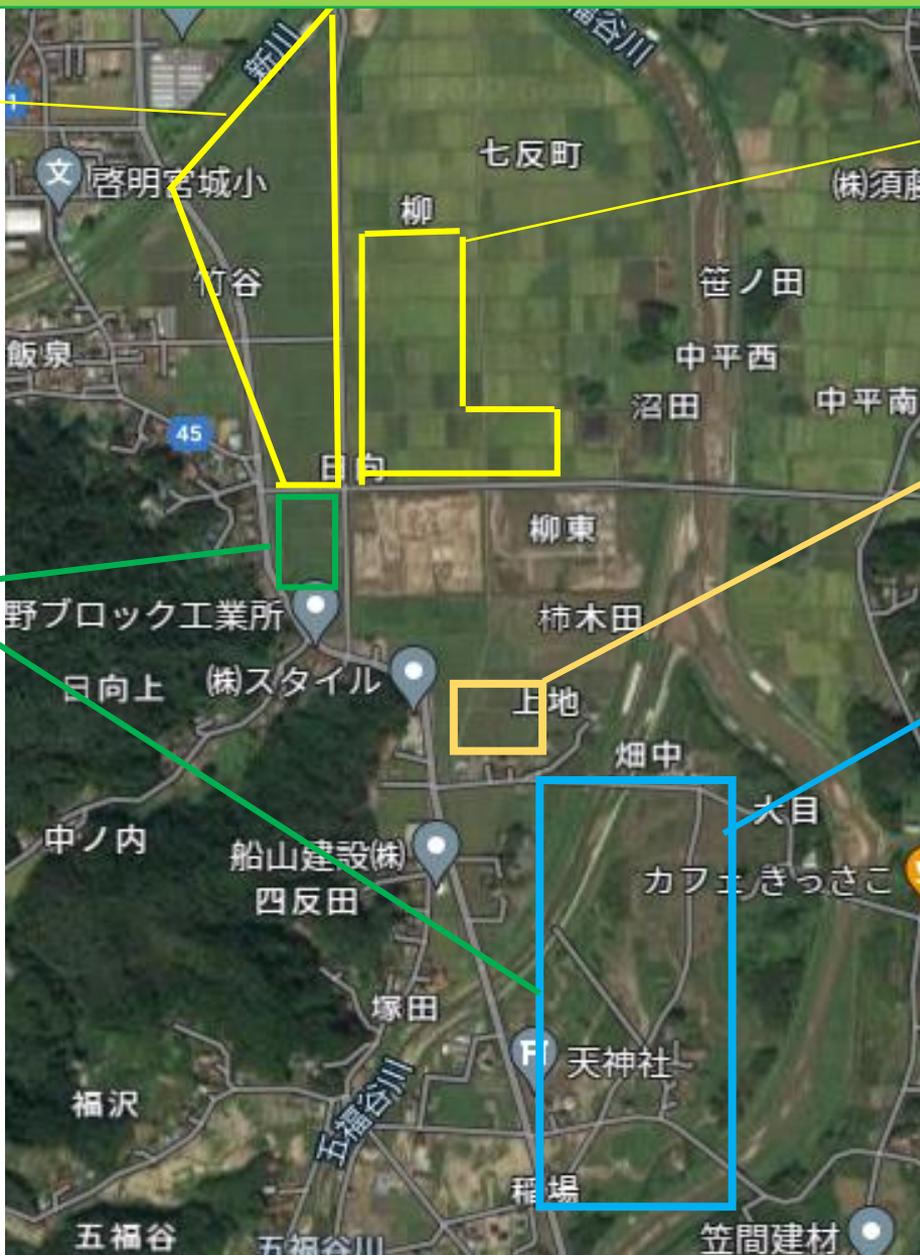
主食用米
(5ha)

そば
(2.2ha)

牧草
(5.2ha)

園芸 (7.1ha)
ブロッコリー
ばれいしょ
さつまいも
さといも
つるむらさき
キャベツ
たまねぎ

地域や組織体制
に適した品目を
選定している
段階



各品目の様子

【ツルムラサキ】



【牧草】



【ばれいしょ】



【ブロッコリー】



【さといも】



【さつまいも】



地域や組織体制に適した品目を選定

2.復旧水田での園芸品目安定栽培支援

園芸品目の核となるブロッコリー
＜新たな取り組み＞

丸森中央集団
転作組合

普及センター
農業・園芸総
合研究所

機械化一貫体系
の実証

ヤンマーアグ
リジャパン株
式会社

丸森町

関係機関の連携による支援

2.復旧水田での園芸品目安定栽培支援

心土破碎機による
排水対策

R4.3.8実演会開催



カットブレーカーで
排水対策

自動操舵システム
中耕培土



RTKを活用した
自動操舵で中耕培土

自動操舵システム
畝成形

R4.8.23実演会開催



RTKを活用した自動操舵
で真っ直ぐな畝づくり

自動操舵システム
薬剤防除



RTKを活用した自動操舵
で防除。薬液節約を調査

機械移植

R4.8.23実演会開催



機械移植で楽々定植

機械収穫

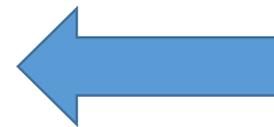


機械収穫で楽々収穫

2.復旧水田での園芸品目安定栽培支援



慣行の畝立て



RTK + 自動操舵でまっすぐ



後の管理も効率up

2.復旧水田での園芸品目安定栽培支援

園芸品目の核となるブロッコリー
機械化一貫体系の実証に取り組んだ目的

軽労化
省力化

農地の
効率的利用

少ない
担い手で
農地を維持

将来の
営農計画
への提案

3.担い手の確保支援

【共同作業による組織の強化】

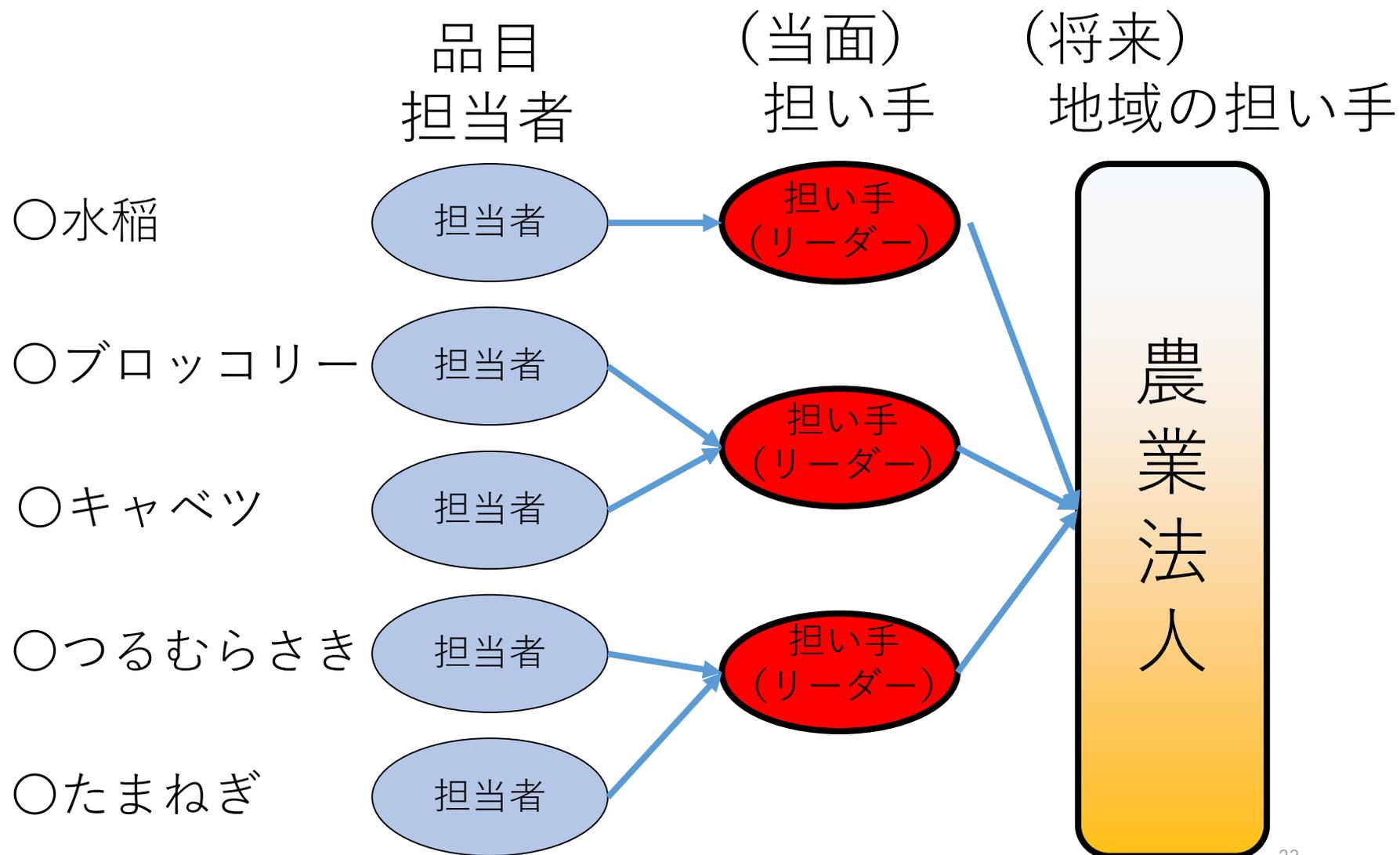


ブロッコリー播種作業



つるむらさきの収穫作業

3.担い手の確保支援



R4活動の成果

- ★ 園芸の面積拡大に伴う，園芸品目選定の支援と技術指導により，地域の営農継続に貢献。
- ★ 地域の条件に合う品目の選定や新たな栽培技術の実証を通じて，将来の営農計画の参考となる知見を提案
- ★ 共同作業による組織体制の強化支援と担い手候補の意識醸成

今後の活動

- ★継続した技術的指導
- ★来年以降の作付品目の選定支援
- ★法人化に向けた専門家派遣等の支援

